

委2721号

新野洲クリーンセンター建設工事に係る  
生活環境影響事後調査業務

---

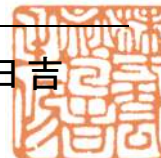
モニタリング調査結果報告書

(騒音・振動、大気質、地下水位)

平成28年3月



株式会社 日吉



# 目 次

1. 業務概要	1
1-1. 業務の目的	1
1-2. 業務の概要	1
(1) 調査件名	1
(2) 調査場所	1
(3) 調査回数	1
(4) 業務期間	1
(5) 発注者	1
(6) 受注者	1
2. 調査地点	3
3. 発生源強度確認調査	4
3-1. 騒音・振動調査	4
(1) 調査方法	4
(2) 調査結果	5
(3) 評価	7
4. 環境調査	8
4-1. 騒音・振動調査	8
(1) 調査方法	8
(2) 調査結果	9
(3) 評価	14
4-2. 大気質調査	15
(1) 調査方法	15
(2) 調査結果	15
(3) 評価	16
4-3. 地下水位調査	17
(1) 調査方法	17
(2) 調査結果	17
(3) 評価	19

## < 巻末資料 >

- ・騒音調査結果詳細
- ・振動調査結果詳細
- ・大気質調査結果一覧
- ・大気質連続観測結果詳細
- ・地下水位連続観測結果詳細

# 1. 業務概要

## 1-1. 業務の目的

本業務は、新野洲クリーンセンターの建設に先立ち実施した生活環境影響調査に基づき、建設工事の施工が事業予定地およびその周辺地域に与える影響について、事後調査を実施したものである。

## 1-2. 業務の概要

### (1) 調査件名

委 2 7 2 1 号

新野洲クリーンセンター建設工事に係る生活環境影響事後調査業務

### (2) 調査場所

野洲市大篠原地先 新野洲クリーンセンター建設予定地およびその周辺

### (3) 調査回数

表 1-1 調査回数

項目	細項目	調査項目	地点数	調査回数(実施日時)
<発生源調査>				
①発生源強度	建設機械騒音	騒音レベル	敷地境界の1地点	1回(6月22日)
確認調査	建設機械振動	振動レベル	敷地境界の1地点	1回(6月22日)
<環境調査>				
②騒音調査	資材等運搬車両騒音	騒音レベル	走行ルート2地点	1回(6月22日)
③振動調査	資材等運搬車両振動	振動レベル	走行ルート2地点	1回(6月22日)
④大気質	建設機械排ガス	浮遊粒子状物質	周辺1地点	1回 (11月21日～11月27日)
		二酸化窒素	周辺1地点	1回 (11月21日～11月27日)
	建設作業粉じん	降下ばいじん	周辺1地点	1回 (11月20日～12月20日)
⑤地下水	地下水位		周辺2地点	常時 (5月28日～2月19日)

### (4) 業務期間

平成27年5月15日～平成28年3月25日

### (5) 発注者

野洲市

### (6) 受注者

株式会社 日吉

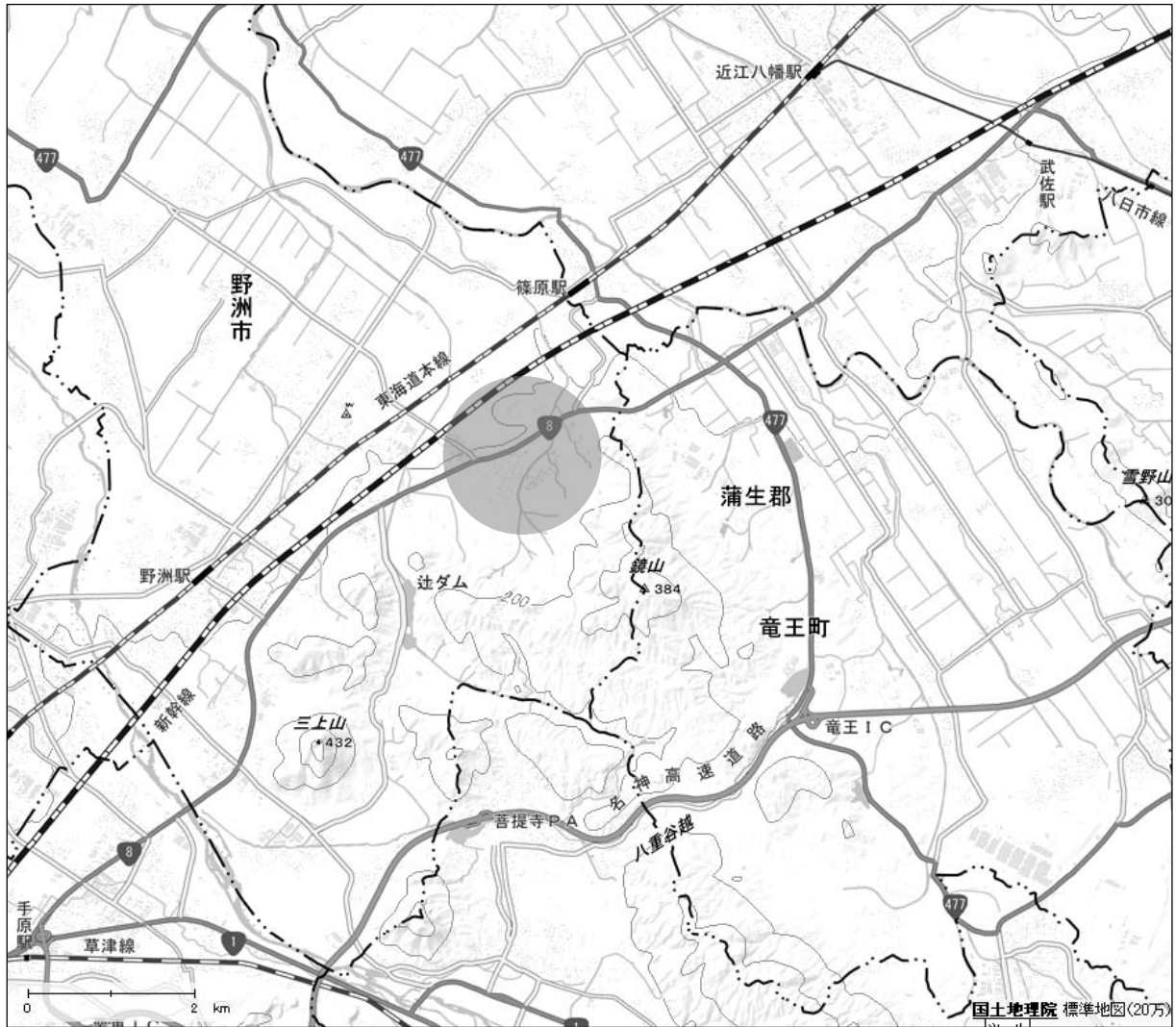
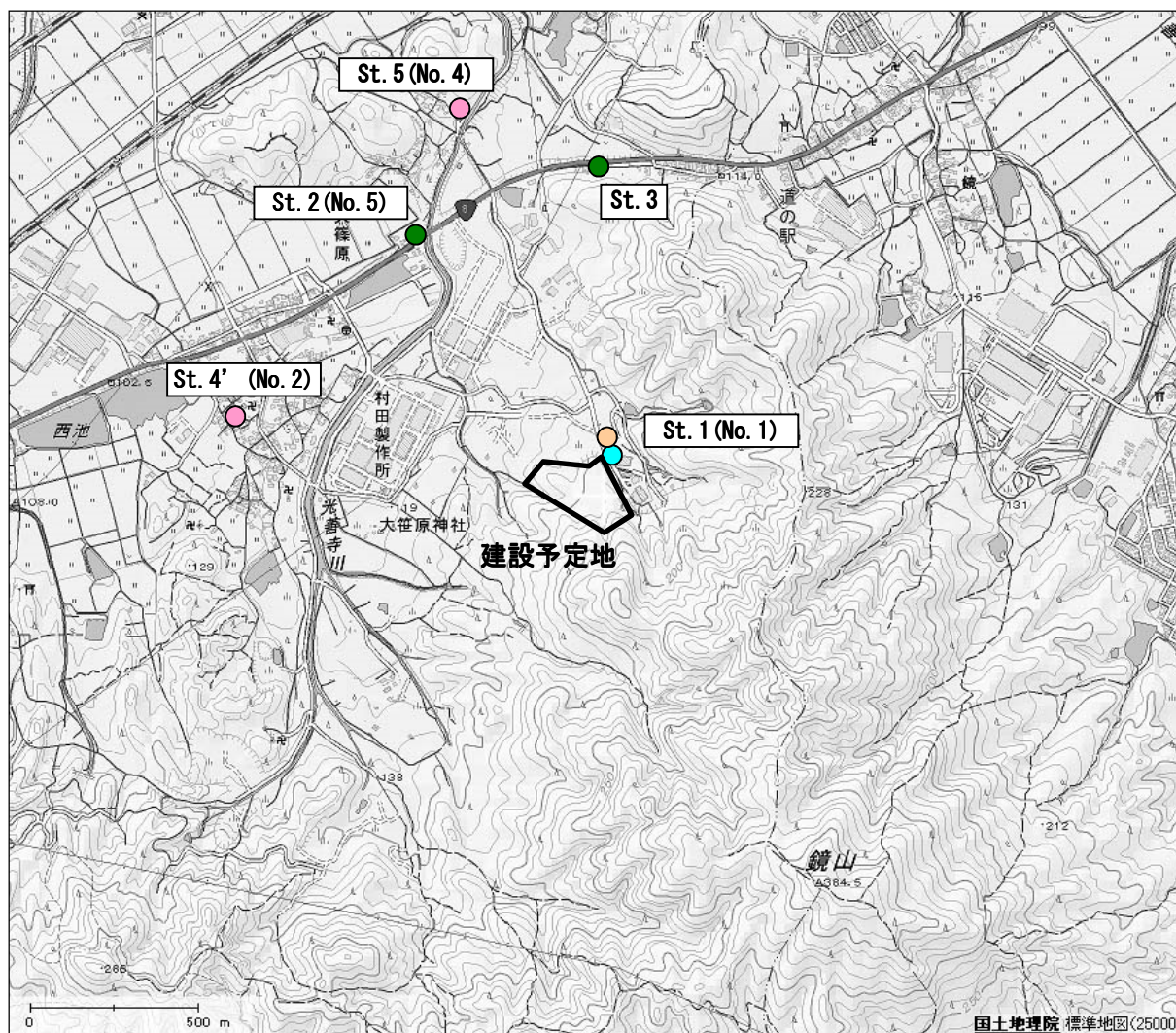


図 1-1 調査区域

## 2. 調査地点

調査地点を図 2-1 に示す。

生活環境影響調査の予測結果および昨年度の生活環境影響事後調査と比較するため、基本的に事前調査と同じ地点で調査を行った。（※地下水位調査地点については調査井戸の借用の都合により、昨年度 St. 4 (No. 3)→今年度 St. 4' (No. 2)に地点を変更して調査を行った。）



(注) 図中地点番号の括弧内は「新野洲クリーンセンター建設に係る生活環境影響調査書」(平成 25 年 8 月 野洲市) (以下、「調査書」という。)に記載の地点番号

- : 発生源強度確認調査(騒音、振動) 地点 : 1 箇所
- : 環境調査(騒音、振動) 地点 : 2 箇所
- : 環境調査(大気質) 地点 : 1 箇所
- : 環境調査(地下水位) 地点 : 2 箇所

図 2-1 調査地点位置図

### 3. 発生源強度確認調査

#### 3-1. 騒音・振動調査

##### (1) 調査方法

調査項目：騒音レベル、振動レベル

調査方法：騒音レベル「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準(昭和43年11月27日厚生省・建設省告示1号)」に定める方法

振動レベル「振動規制法施行規則(昭和51年11月10日総理府令第58号)」別表第一に定める方法

調査地点：敷地境界付近1地点(St.1)(図2-1参照)

調査日：平成27年6月22日

調査時間：建設工事が行われる時間帯(8:00~18:00)に、1回あたり10分間の測定を1時間に1回(計10回)行った。測定中は測定員が常駐し、建設機械等の稼働に伴う騒音・振動と他の原因による騒音・振動を識別してチャートに記録した。

評価方法：調査結果と生活環境影響調査の環境保全目標との対比により評価した。

(環境保全目標) 騒音：85dB以下、振動：75dB以下



調査地点(St.1：騒音・振動)

## (2) 調査結果

敷地境界付近 (St. 1) における建設工事中の騒音調査結果を表 3-1 および図 3-1 に、振動調査結果を表 3-2 および図 3-2 に示す。

各時間とも、騒音計および振動計の指示値が不規則かつ大幅な変動を示したため、騒音の測定結果は 90%レンジ上端値 ( $L_{A5, 10min}$ ) で、振動の測定結果は 80%レンジ上端値 ( $L_{10, 10min}$ ) で表示した。

なお、参考として生活環境影響調査の調査結果および予測値も掲載した。

### ①騒音

各時間とも、最も影響が大きかったのは敷地内からの土砂搬出車(主に 10t ダンプトラック)の走行音であり、建設機械(杭打ち機, バックホー)の作業音の影響は比較的小さかった。各時間の騒音レベルは 51~71dB、平均 63dB であり、工事前(生活環境影響調査時)の 53dB に比べると 10dB 上昇したが、環境保全目標の 85dB および予測値 79dB を大幅に下回っており、昨年度の造成工事に関わる事後調査の結果(65dB)と同様に、工事に伴う騒音の著しい影響はないと考えられる。

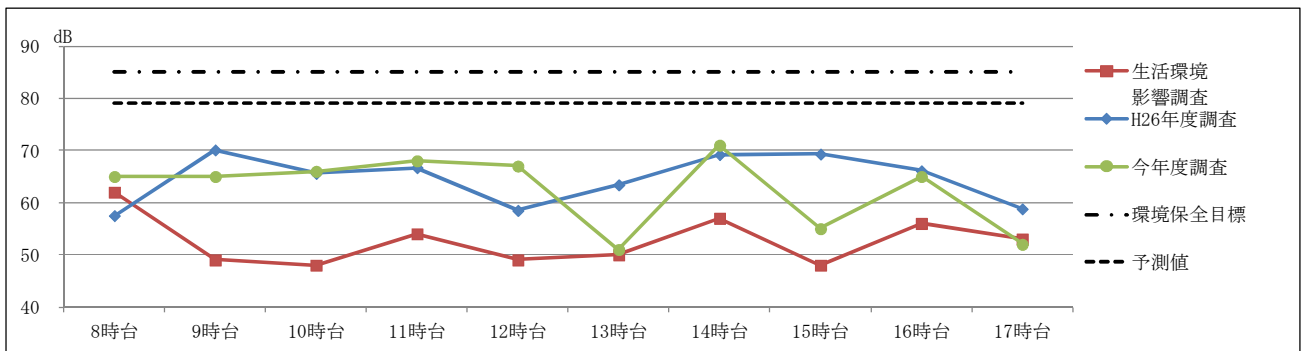


図 3-1 騒音調査結果 (St. 1)

### ②振動

各時間とも、最も影響が大きかったのは敷地内からの土砂搬出車(主に 10t ダンプトラック)の通行時の振動であり、建設機械(杭打ち機, バックホー)の作業に伴う振動は比較的小さかった。各時間の振動レベルは 30 以下~31dB、平均 30dB であり、環境保全目標の 75dB はもとより、人の振動感覚閾値 (55dB 程度) を大幅に下回っており、工事に伴う振動の影響はほとんどないと考えられる。

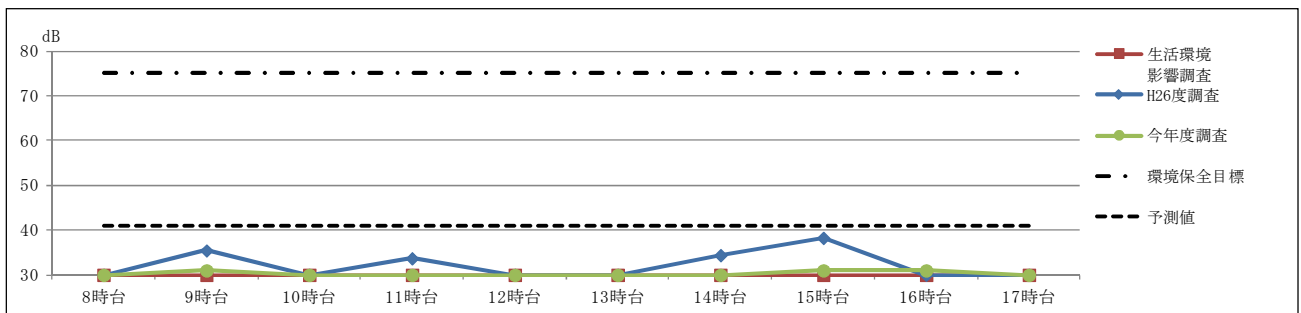


図 3-2 振動調査結果 (St. 1)

表 3-1 騒音調査結果 (St. 1)

St. 1 (敷地境界付近)				騒音		(単位 : dB)	
調査 時間帯	L <sub>A5, 10min</sub> (dB)			環境保全目標	生活環境影響調査 予測値	主な騒音源	
	今年度調査	H26年度調査	生活環境 影響調査			工事関係	工事以外
8時台	65	58	62			搬入出車, バックホー	小型車, 鳥
9時台	65	70	49			搬入出車, バックホー	ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
10時台	66	66	48			搬入出車	ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
11時台	68	67	54			搬入出車	ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
12時台	67	59	49	85	79	搬入出車, バックホー	ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
13時台	51	63	50			バックホー	ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
14時台	71	69	57			搬入出車, バックホー	ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
15時台	55	69	48			杭打ち機	ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
16時台	65	66	56			搬入出車, 杭打ち機, バックホー	小型車, 鳥
17時台	52	59	53			杭打ち機, バックホー	小型車, 鳥
平均	63	65	53				
				調査結果が、環境保全目標を上回っているもの			
<環境保全目標>				敷地境界において、騒音規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」により85dB以下とする。			



表 3-2 振動調査結果 (St. 1)

St. 1(敷地境界付近)				振動			(単位: dB)
調査 時間帯	L <sub>10,10min</sub> (dB)			環境保全目標	生活環境影響調査	主な振動源	
	今年度調査	H26度調査	生活環境 影響調査		予測値	工事関係	工事以外
8時台	<30	<30	<30			搬入出車, バック ホー	小型車
9時台	31	35	<30			搬入出車, バック ホー	ゴミ収集車等, 小型 車
10時台	<30	<30	<30			搬入出車	ゴミ収集車等, 小型 車
11時台	<30	34	<30			搬入出車	ゴミ収集車等, 小型 車
12時台	<30	<30	<30	75	41	搬入出車, バック ホー	ゴミ収集車等, 小型 車
13時台	<30	<30	<30			バックホー	ゴミ収集車等, 小型 車
14時台	30	34	<30			搬入出車, バック ホー	ゴミ収集車等, 小型 車
15時台	31	38	<30			杭打ち機	ゴミ収集車等, 小型 車
16時台	31	<30	<30			搬入出車, 杭打ち 機, バックホー	小型車
17時台	<30	<30	<30			杭打ち機, バック ホー	小型車
平均	30	32	<30				
調査結果が、環境保全目標を上回っているもの							
<環境保全目標>				敷地境界において、振動規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」による規制基準の75dB以下とする。			

(3) 評価

以上の結果から、建設工事に伴う騒音・振動の影響は、敷地境界付近で環境保全目標を満足すると評価される。

## 4. 環境調査

### 4-1. 騒音・振動調査

#### (1) 調査方法

調査項目：騒音レベル・振動レベル

調査方法：「環境騒音の表示・測定方法」(JIS Z 8731)に定める方法

「振動レベル測定方法」(JIS Z 8735)に定める方法

調査地点：走行ルート沿道 2 地点(St. 2(調査書の No. 5)、St. 3)

調査日：平成 27 年 6 月 22 日(当日の工事車両は St. 3 方面にのみ通行していた。)

調査時間：工事車両の通行時間帯(7:00~18:00)に連続測定

評価方法：調査結果と生活環境影響調査の環境保全目標との対比により評価した。

(騒音) 環境保全目標：現況に著しい影響を及ぼさないこと

(振動) 環境保全目標：昼間 65dB 以下、夜間 60dB 以下



調査地点(St. 2：騒音・振動)



調査地点(St. 3：騒音・振動)

## (2) 調査結果

沿道地点 (St. 2、St. 3) における騒音の調査結果を表 4-1、表 4-2 および図 4-1、図 4-2 に、振動の調査結果を表 4-3、表 4-4 および図 4-3、図 4-4 に示す。

全測定時間帯を通じて、騒音計および振動計の指示値が不規則かつ大幅な変動を示したため、騒音の測定結果は等価騒音レベル ( $L_{Aeq, 1hr}$ ) で、振動の測定結果は 80%レンジ上端値 ( $L_{10, 1hr}$ ) で表示した。

なお、参考として生活環境影響調査の調査結果および予測値も掲載した。

### ①騒音

調査当日の工事車両は竜王町方面への土砂搬出車両のみであり、St. 3 では工事車両の通行による影響が考えられた。等価騒音レベル ( $L_{Aeq, 1hr}$ ) は 73.2~73.9dB、7時~18時の11時間では 73.6dB で、環境基準の 70dB は上回るものの、要請限度 (表 4-1 の脚注参照) の 75dB は下回っている。時刻による変動は小さく、交通量の変動が小さかったものと推定される。St. 3 の前面の国道 8 号には建設工事に伴う土砂搬出車両等が通行していたが、それによる著しい影響はないと考えられる。

St. 2 では、等価騒音レベルは 1 時間値が 72.9~74.6dB、11 時間では 73.9dB で、環境基準値は上回るものの、要請限度値や生活環境影響調査の測定結果および予測値は下回る結果であった。St. 3 と同様に 1 日を通じて変動が小さく、測定値も St. 3 と大差はなかった。

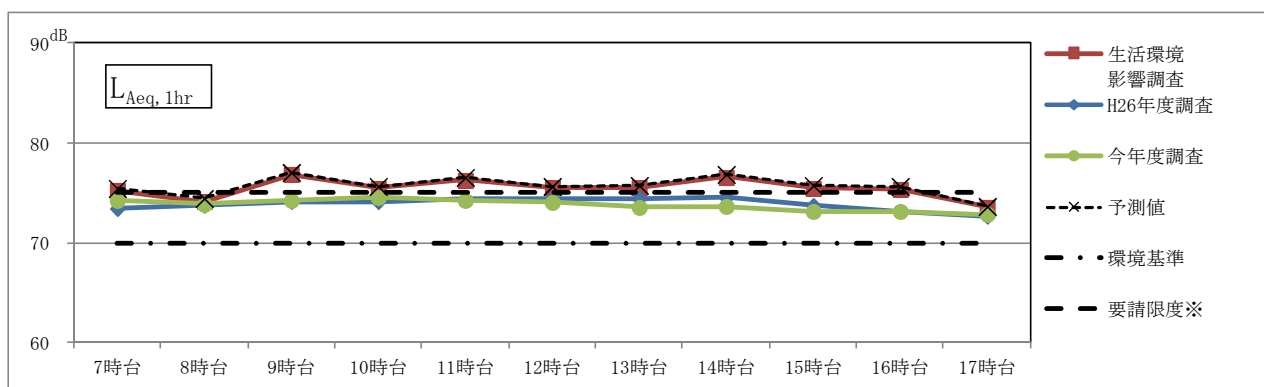


図 4-1 道路交通騒音調査結果 (St. 2)

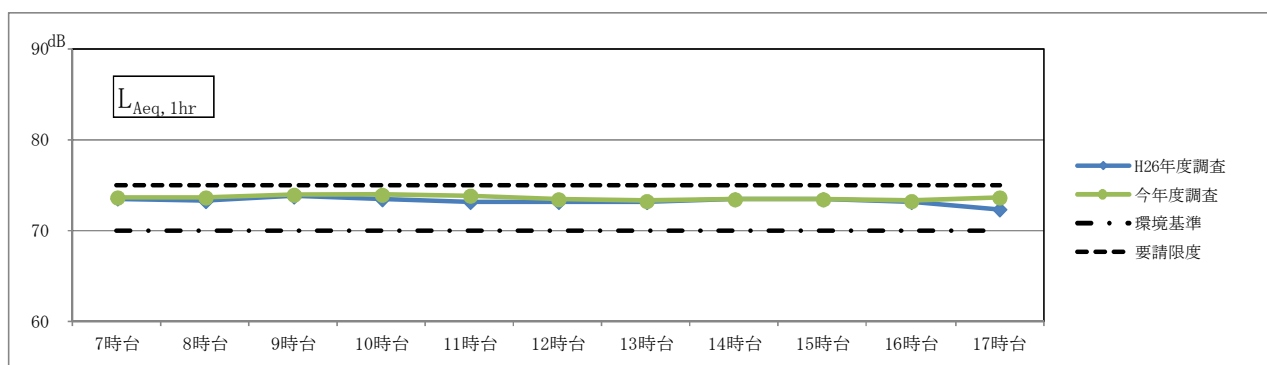


図 4-2 道路交通騒音調査結果 (St. 3)

表 4-1 道路交通騒音調査結果 (St.2)

St.2 (沿道地点)			騒音				(単位: dB)
調査 時間帯	L <sub>Aeq, 1hr</sub>			生活環境影響調査 予測値	環境基準	<参考> 要請限度*	主な騒音源
	今年度調査	H26年度調査	生活環境 影響調査				
7時台	74.3	73.5	75.3	75.5			道路交通
8時台	73.9	73.8	74.2	74.5			道路交通
9時台	74.3	74.2	76.9	77.1			道路交通
10時台	74.6	74.2	75.5	75.7			道路交通
11時台	74.3	74.4	76.3	76.6			道路交通
12時台	74.1	74.5	75.6	75.7	70	75	道路交通
13時台	73.6	74.5	75.6	75.8			道路交通
14時台	73.7	74.6	76.6	76.9			道路交通
15時台	73.2	73.8	75.5	75.8			道路交通
16時台	73.2	73.2	75.4	75.7			道路交通
17時台	72.9	72.7	73.6	73.7			道路交通
7:00~18:00	73.9	74.0	75.6	75.8			
<環境保全目標>	環境基本法に基づく「騒音に係る環境基準」より、昼間70dB（幹線交通を担う道路に近接）以下が基本であるが、現況の騒音レベルが環境基準を超えていることから、ここでは現況に著しい影響を及ぼさないこととする。						

※騒音規制法においては、市町村長は指定地域内で騒音の測定を行った場合に、その自動車騒音がある限度を超えていることにより道路周辺の生活環境が著しく損なわれていると認められるときは、都道府県公安委員会に対して、道路交通法に基づく対策を講じるよう要請することができるとしている。この判断の基準となる値を要請限度という。

表 4-2 道路交通騒音調査結果 (St.3)

St.3 (沿道地点)			騒音		(単位：dB)
調査 時間帯	$L_{Aeq,1hr}$		環境基準	<参考> 要請限度	主な騒音源
	今年度調査	H26年度調査			
7時台	73.6	73.5			道路交通
8時台	73.6	73.2			道路交通
9時台	73.9	73.7			道路交通
10時台	73.9	73.4			道路交通
11時台	73.8	73.1			道路交通
12時台	73.4	73.1	70	75	道路交通
13時台	73.2	73.1			道路交通
14時台	73.4	73.4			道路交通
15時台	73.4	73.4			道路交通
16時台	73.2	73.1			道路交通
17時台	73.6	72.3			道路交通
7:00～18:00	73.6	73.2			
					調査結果が、要請限度を上回っているもの
					調査結果が、環境基準を上回っているもの
<環境保全目標>	環境基本法に基づく「騒音に係る環境基準」より、昼間70dB（幹線交通を担う道路に近接）以下が基本であるが、現況の騒音レベルが環境基準を超えていることから、ここでは現況に著しい影響を及ぼさないこととする。				

## ②振動

St. 3 における振動レベル( $L_{10,1hr}$ )は 49~53dB、平均 51dB であり、騒音と同様に 1 日を通じて変動が小さかった。環境保全目標の 65dB はもとより、人の振動感覚閾値 (55dB 程度) をも下回っており、振動については道路交通による影響は小さいと考えられる。

St. 2 における振動レベル( $L_{10,1hr}$ )は 47~55dB、平均 52dB であり、環境保全目標はもとより、生活環境影響調査の測定結果 (平均 59dB) や予測値 (平均 60dB)、人の振動感覚閾値を下回る結果であった。土砂搬出車両等の通行がなかった St. 3 よりもむしろ低いレベルであり、工事車両の通行による影響はないと考えられる。なお、騒音に比べて生活環境影響調査の測定結果との差が大きいが、これについては、生活環境影響調査時の測定位置 (ピックアップ設置位置) が道路敷地内に少し入っていたのに対して、今回は道路端で測定したことの影響が考えられる。

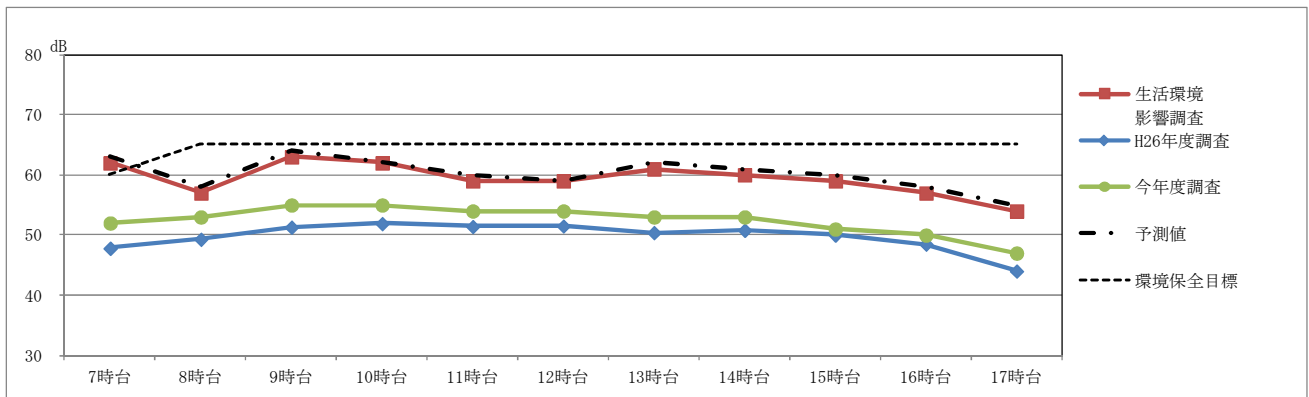


図 4-3 道路交通振動調査結果 (St. 2)

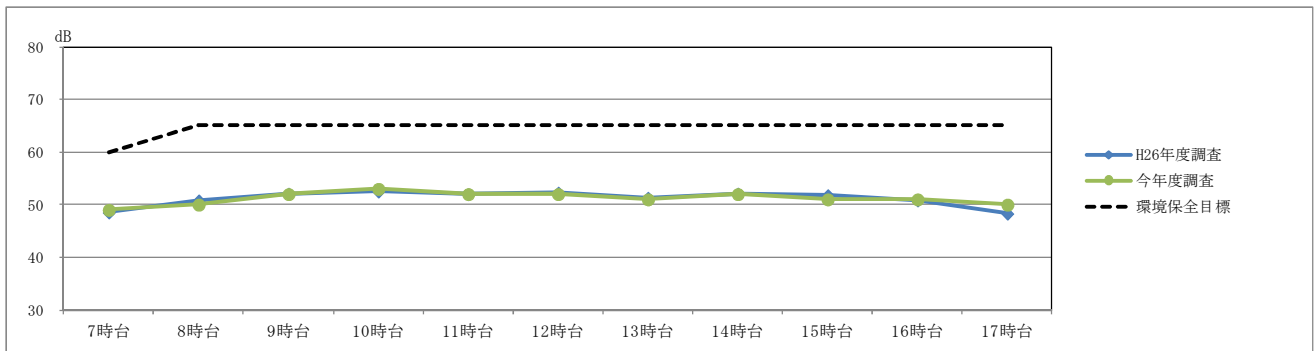


図 4-4 道路交通振動調査結果 (St. 3)

表 4-3 道路交通振動調査結果 (St.2)

St.2 (沿道地点)		振動				(単位: dB)	
調査 時間帯	L <sub>10,1hr</sub>			生活環境影響調査	環境保全目標	主な騒音源	
	今年度調査	H26年度調査	生活環境 影響調査	予測値			
7時台	52	48	62	63	60	道路交通	
8時台	53	49	57	58		道路交通	
9時台	55	51	63	64		道路交通	
10時台	55	52	62	62		道路交通	
11時台	54	51	59	60		道路交通	
12時台	54	52	59	59	65	道路交通	
13時台	53	50	61	62		道路交通	
14時台	53	51	60	61		道路交通	
15時台	51	50	59	60		道路交通	
16時台	50	49	57	58		道路交通	
17時台	47	44	54	55		道路交通	
平均	52	50	59	60			
		調査結果が、環境保全目標を上回っているもの					
<環境保全目標>		振動規制法に基づく「道路交通振動の限度(要請限度) <sup>*</sup> 」の「第1種区域」とし、昼間65dB以下、夜間60dB以下とする。					

※振動規制法においては、市町村長は指定地域内で振動の測定を行った場合に、その道路交通振動がある限度を超えていることにより道路周辺の生活環境が著しく損なわれていると認められるときには、道路管理者などに道路交通振動の防止のための舗装などの対策を執るべきことや、都道府県公安委員会に対して道路交通法に基づく対策を講じるよう要請することができるとしている。この判断の基準となる値を要請限度という。

表 4-4 道路交通振動調査結果 (St.3)

St.3 (沿道地点)		振動			(単位 : dB)
調査 時間帯	L <sub>10,1hr</sub>		環境保全目標	主な騒音源	
	今年度調査	H26年度調査			
7時台	49	49	60	道路交通	
8時台	50	51		道路交通	
9時台	52	52		道路交通	
10時台	53	53		道路交通	
11時台	52	52		道路交通	
12時台	52	52	65	道路交通	
13時台	51	51		道路交通	
14時台	52	52		道路交通	
15時台	51	52		道路交通	
16時台	51	51		道路交通	
17時台	50	48		道路交通	
平均	51	51			
					調査結果が、環境保全目標を上回ってるもの
<環境保全目標>	振動規制法に基づく「道路交通振動の限度(要請限度)」の「第1種区域」とし、昼間65dB以下、夜間60dB以下とする。				

### (3) 評価

以上の結果から、工事車両の通行に伴う騒音・振動の影響は、沿道地点で環境保全目標を満足すると評価される。



## 4-2. 大気質調査

### (1) 調査方法

調査項目：浮遊粒子状物質、二酸化窒素、降下ばいじん

調査方法：浮遊粒子状物質 「大気の汚染に係る環境基準について(昭和48年5月8日環告25)」  
に定める方法

二酸化窒素 「二酸化窒素に係る環境基準について(昭和53年7月11日環告38)」  
に定める方法

降下ばいじん ダストジャーによる方法

調査地点：周辺1地点(St.1(調査書のNo.1)(図2-1参照))

調査期間：浮遊粒子状物質, 二酸化窒素……平成27年11月21日～11月27日(1週間連続測定)

降下ばいじん ……………平成27年11月20日～12月20日(1ヶ月捕集)

評価方法：調査結果と生活環境影響調査の環境保全目標との対比により評価した。

(環境保全目標) 浮遊粒子状物質：日平均0.10mg/m<sup>3</sup>以下

二酸化窒素 : 日平均0.04ppm以下

降下ばいじん : 10t/km<sup>2</sup>/月以下



調査地点(St.1：大気質)

### (2) 調査結果

今年度調査結果と生活環境影響調査時の測定値、予測値および環境保全目標とを比較したものを表4-5、表4-6に示す。なお、各項目の調査結果一覧表と調査結果詳細は巻末の資料編に掲載した。

浮遊粒子状物質と二酸化窒素については、いずれも生活環境影響調査の測定値と予測値を下回り、かつ環境保全目標を下回っている。

降下ばいじんは、生活環境影響調査の測定値と予測値を下回り、かつ環境保全目標を下回っている。

なお、調査期間中（11月～12月）には、

- ・土木建設工事… コンクリート、鉄筋、型枠、鉄骨 ALC 工事
- ・プラント工事… 破砕機、コンベヤ等各設備の搬入・据付等が行われていた。

表 4-5 調査結果比較(浮遊粒子状物質、二酸化窒素)

	今年度調査	昨年度調査	生活環境影響調査		環境保全目標
	St.1 地点	St.1 地点	No.1 地点		
	日平均値(最高値)	日平均値(最高値)	日平均値(最高値)	日平均予測値	
浮遊粒子状物質	0.022	0.039	0.042	0.025	日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> 以下
二酸化窒素	0.011	0.009	0.020	0.018	日平均値が 0.04ppm 以下

表 4-6 調査結果比較(降下ばいじん)

	今年度調査	昨年度調査	生活環境影響調査		環境保全目標
	St.1 地点	St.1 地点	No.1 地点		
	測定値	測定値	測定値	予測値	
降下ばいじん	1.0	2.3	3.5～4.4	6.04	10t/km <sup>2</sup> /月以下

### (3) 評価

以上の結果から、建設工事に伴う大気質への影響は、環境保全目標を満足すると評価される。

### 4-3. 地下水位調査

#### (1) 調査方法

調査項目：地下水位

調査方法：圧力式自記水位計(測定レンジ 9m)による方法

調査地点：周辺 2 地点(St. 4' 調査書の No. 2)、St. 5(調査書の No. 4) (図 2-1 参照)

調査期間：平成 27 年 5 月 28 日～平成 28 年 2 月 19 日 (8 ヶ月間連続測定)

評価方法：調査結果と生活環境影響調査の環境保全目標との対比により評価した。

(環境保全目標) 周辺住民の日常生活に支障を生じないこと



調査地点(St. 4' : 地下水位)



調査地点(St. 5 : 地下水位)

なお、測定結果については生活環境影響調査と同様に、下表に示す標高を基準に整理した。

表 4-7 調査地点井戸天端標高

	井戸天端標高(m)	備考
調査地点 : St. 4'	108.522	生活環境影響調査地点 : No. 2
調査地点 : St. 5	105.922	生活環境影響調査地点 : No. 4

#### (2) 調査結果

##### ① 年度の地下水位の変動の傾向による工事の地下水位への影響

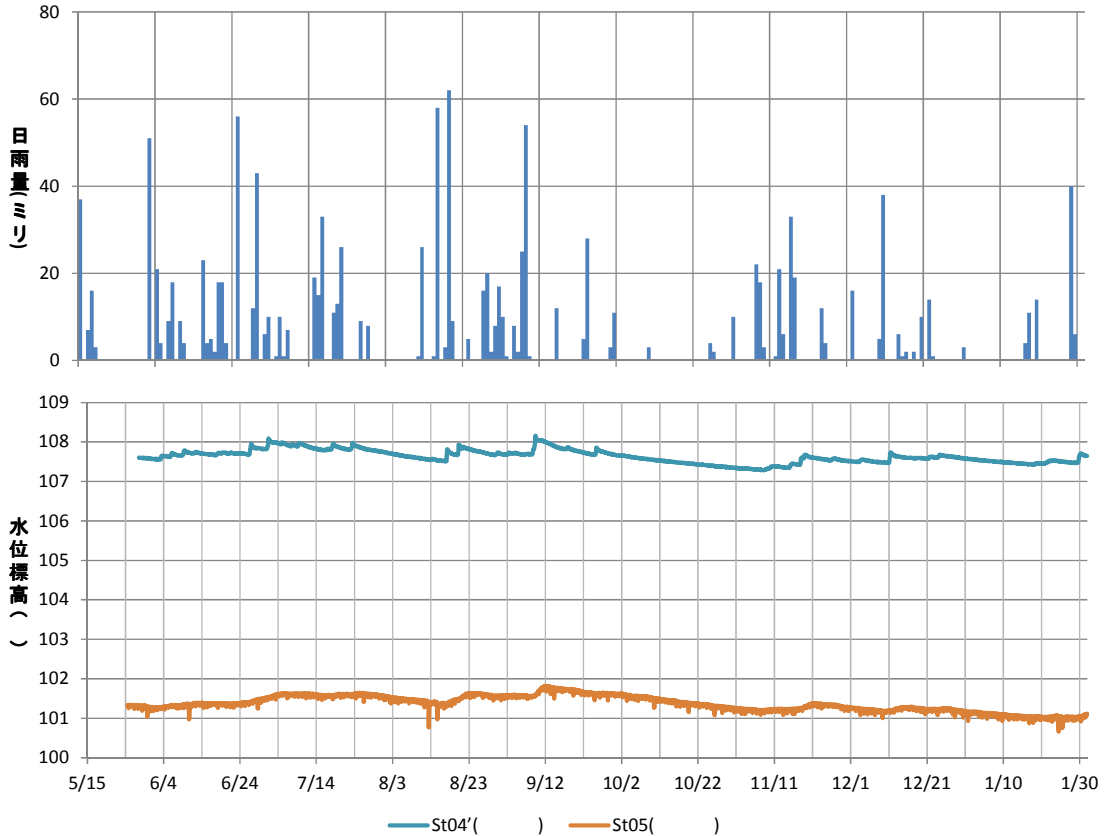
各地点の地下水位連続観測結果を図 4-5 に示す。参考のため国土交通省水文水質データベースにて公開されている野洲川観測所の雨量データも掲載した。

今年度は 6 月～9 月にかけて全体的に雨が多く、St. 4'、St. 5 とともに概ね降水量の影響を受けた水位変動をしている様子が見て取れる。特に 6 月 26 日の降雨(総雨量 56mm)、6 月 30 日～7 月 1 日にかけての降雨(総雨量 55mm)、8 月 20 日～21 日の降雨(総雨量 71mm)、9 月 8 日～9 日にかけての降雨(総雨量 79mm)のように、ほぼ 1 日間の短時間の間に 50 mm を越える降雨があった時は、0.2～0.5m 程度の水位上昇が見られた。St. 5 は降雨により上昇した水位が戻るのが St. 4' と比べると遅い傾向がみられた。これについては、St. 5 は近くを流れる河川水位の影響を受けていることが要因として考えられる。

12月以降の渇水期ではSt. 4'、St. 5とも全体に水位の低下がみられた。

また、St. 5については、昨年度までと同様に井戸水使用時のポンプくみ上げに伴う水位低下が見られた。

水位変動をみる限り、今年度調査期間中では、工事の影響と思われるような水位低下は認められない。



(データ出典：国土交通省水文水質データベースで公開されている野洲川観測所雨量より)

図 4-5 地下水位連続観測結果

## ②生活環境影響調査時の観測結果との比較による工事の地下水位への影響の検討

今年度および昨年度調査と生活環境影響調査の各地点の地下水位連続観測結果を比較したものを表 4-8 及び図 4-6 に示す。(ただし、St. 4' 地点については、昨年度と別地点であるため、昨年度調査結果は無い。)

St. 4'、St. 5とも今年度調査と生活環境影響調査では水位に大きな違いは見られなかった。

St. 5については、7月中では昨年度調査結果と比べて最大で1m程度水位が高くなっているが、これについては降雨に伴う水位上昇によるものであり、比較的降雨が少ない9月以降では今年度調査と昨年度調査、および生活環境影響調査の結果では水位に大きな違いは見られなかった。

St. 4' および St. 5 の双方とも、今年度調査と昨年度調査結果、および生活環境影響調査では調査期間中の最高値、最低値、および平均はほぼ同等であり、工事の影響と思われるような水位低下は認められなかった。

表 4-8 地下水位観測結果の比較

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
St04' (環境影響評価)	最大	107.8	108.0	108.0	107.8	107.6	107.7	107.5	107.5	107.7
	最少	107.5	107.3	107.7	107.4	107.2	107.3	107.2	107.2	107.4
	平均	107.6	107.6	107.8	107.6	107.4	107.5	107.4	107.4	107.6
St04' (今年度)	最大	107.6	108.0	108.1	107.9	108.2	107.7	107.7	107.7	107.7
	最少	107.6	107.6	107.7	107.5	107.7	107.3	107.3	107.5	107.4
	平均	107.6	107.7	107.9	107.7	107.8	107.5	107.4	107.6	107.5
St05(環境影響評価)	最大	101.3	101.3	101.9	101.8	101.5	101.4	101.3	101.1	101.2
	最少	100.8	100.9	101.0	101.4	101.1	101.1	100.8	100.7	100.7
	平均	101.2	101.2	101.7	101.7	101.3	101.3	101.1	101.0	101.0
St05(昨年度)	最大	-	-	101.1	101.8	101.8	101.5	101.3	101.2	101.3
	最少	-	-	100.4	100.9	101.3	101.2	101.0	100.8	100.8
	平均	-	-	101.1	101.4	101.6	101.4	101.2	101.1	101.1
St05(今年度)	最大	101.3	101.5	101.6	101.6	101.8	101.6	101.4	101.3	101.2
	最少	101.0	101.0	101.4	100.8	101.5	101.1	101.1	100.9	100.7
	平均	101.3	101.4	101.6	101.5	101.6	101.4	101.3	101.2	101.1

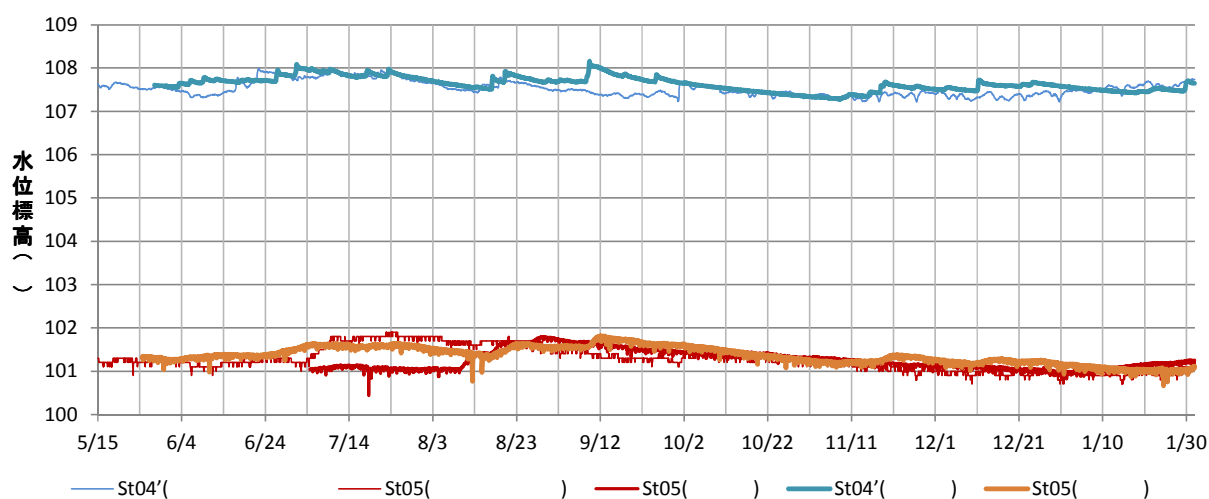


図 4-6 地下水位連続観測結果比較

### (3) 評価

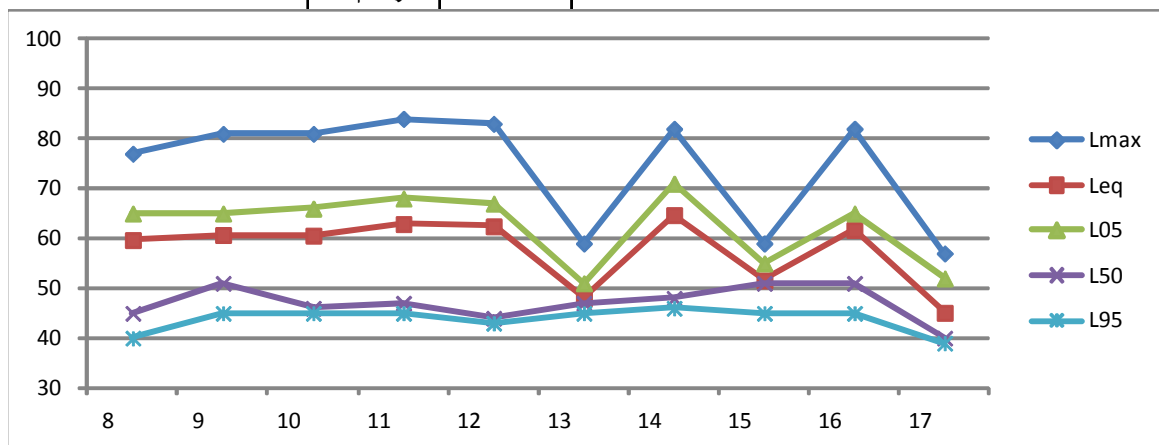
以上の結果から、建設予定地周辺の地下水位に対して建設工事による影響は認められず、環境保全目標を満足すると評価される。

# 卷末資料



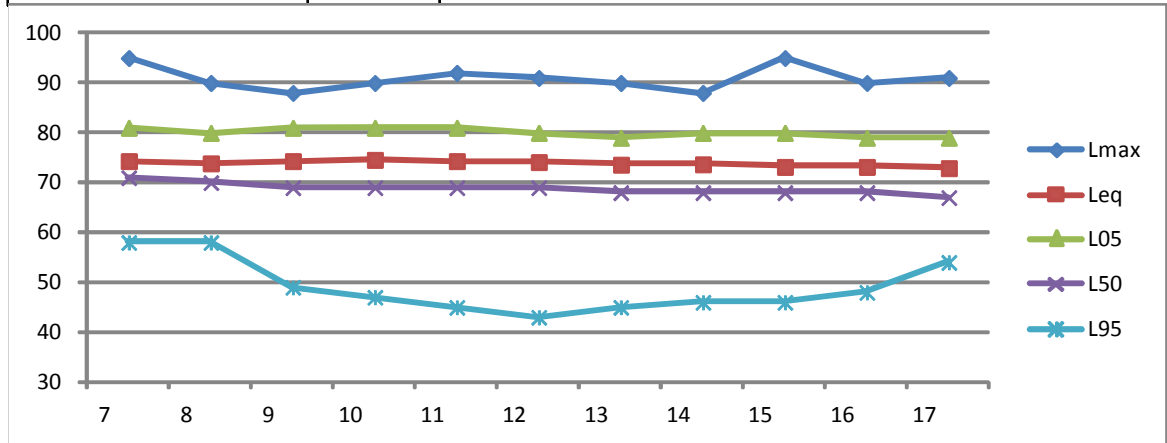
<騒音調査結果詳細>

St. 1	地点	騒音				主な騒音源	
		Lmax	Leq	L05	L50		L95
		(単位 : dB)					
8時台		77	59.7	65	45	40	搬入出車, バックホー, 小型車, 鳥
9時台		81	60.7	65	51	45	搬入出車, バックホー, ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
10時台		81	60.6	66	46	45	搬入出車, ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
11時台		84	62.9	68	47	45	搬入出車, ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
12時台		83	62.4	67	44	43	搬入出車, バックホー, ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
13時台		59	48.0	51	47	45	バックホー, ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
14時台		82	64.7	71	48	46	搬入出車, バックホー, ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
15時台		59	51.6	55	51	45	杭打ち機, ゴミ収集車等, 小型車, 鳥
16時台		82	61.7	65	51	45	搬入出車, 杭打ち機, バックホー, 小型車, 鳥
17時台		57	45.1	52	40	39	杭打ち機, バックホー, 小型車, 鳥
			平均	63			

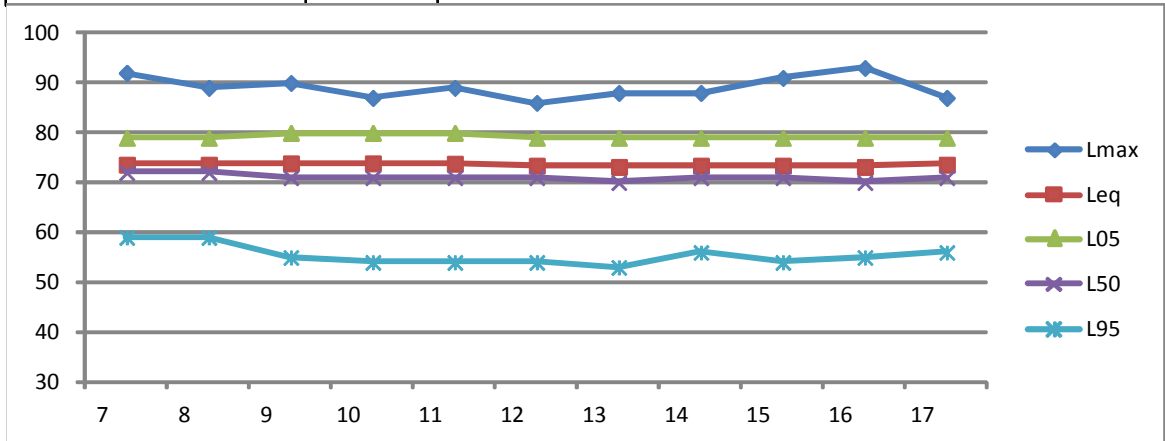




St. 2	地点	騒音				(単位 : dB)
	Lmax	Leq	L05	L50	L95	主な騒音源
7時台	95	74.3	81	71	58	道路交通
8時台	90	73.9	80	70	58	道路交通
9時台	88	74.3	81	69	49	道路交通
10時台	90	74.6	81	69	47	道路交通
11時台	92	74.3	81	69	45	道路交通
12時台	91	74.1	80	69	43	道路交通
13時台	90	73.6	79	68	45	道路交通
14時台	88	73.7	80	68	46	道路交通
15時台	95	73.2	80	68	46	道路交通
16時台	90	73.2	79	68	48	道路交通
17時台	91	72.9	79	67	54	道路交通
7:00~18:00		73.9				

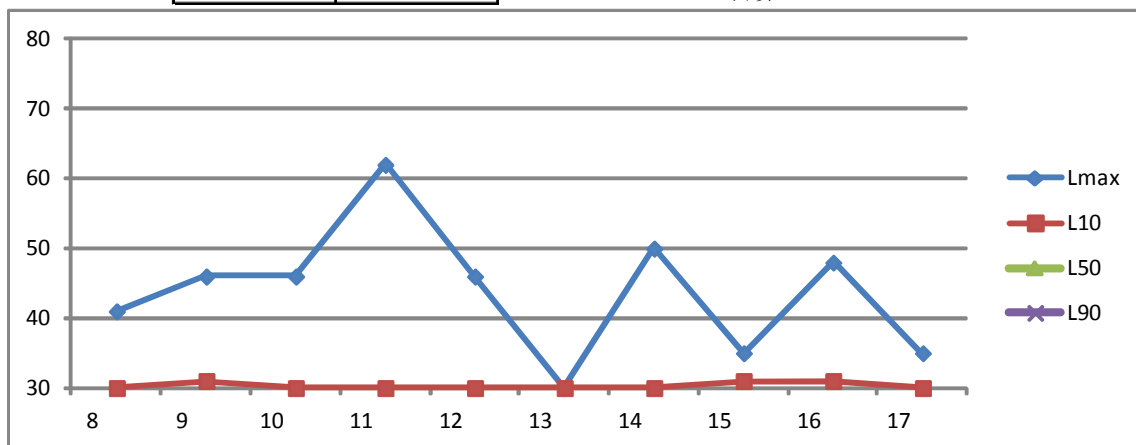


St. 3	地点	騒音				(単位 : dB)	主な騒音源
		Lmax	Leq	L05	L50		
	7時台	92	73.6	79	72	59	道路交通
	8時台	89	73.6	79	72	59	道路交通
	9時台	90	73.9	80	71	55	道路交通
	10時台	87	73.9	80	71	54	道路交通
	11時台	89	73.8	80	71	54	道路交通
	12時台	86	73.4	79	71	54	道路交通
	13時台	88	73.2	79	70	53	道路交通
	14時台	88	73.4	79	71	56	道路交通
	15時台	91	73.4	79	71	54	道路交通
	16時台	93	73.2	79	70	55	道路交通
	17時台	87	73.6	79	71	56	道路交通
7:00~18:00			73.6				

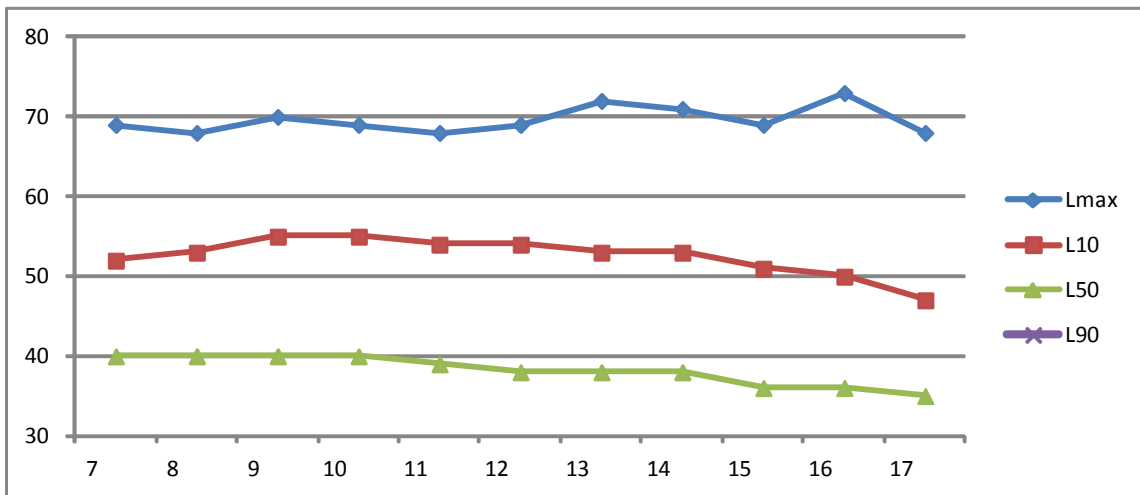


<振動調査結果詳細>

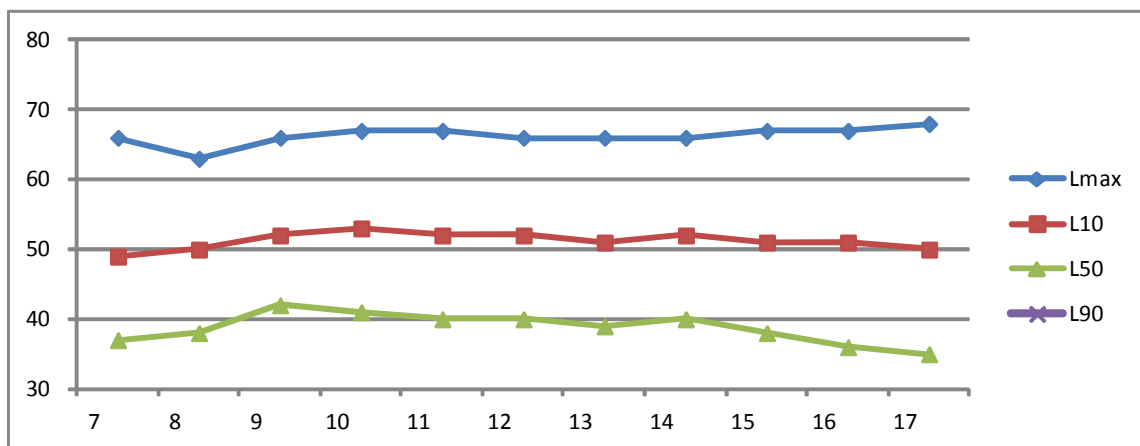
St. 1	地点	振動			(単位：dB)	主な振動源
		Lmax	L10	L50		
	8時台	41	<30	<30	<30	搬入出車, バックホー, 小型車
	9時台	46	31	<30	<30	搬入出車, バックホー, ゴミ収集車等, 小型車
	10時台	46	<30	<30	<30	搬入出車, ゴミ収集車等, 小型車
	11時台	62	<30	<30	<30	搬入出車, ゴミ収集車等, 小型車
	12時台	46	<30	<30	<30	搬入出車, バックホー, ゴミ収集車等, 小型車
	13時台	<30	<30	<30	<30	バックホー, ゴミ収集車等, 小型車
	14時台	50	30	<30	<30	搬入出車, バックホー, ゴミ収集車等, 小型車
	15時台	35	31	<30	<30	杭打ち機, ゴミ収集車等, 小型車
	16時台	48	31	<30	<30	搬入出車, 杭打ち機, バックホー, 小型車
	17時台	35	<30	<30	<30	杭打ち機, バックホー, 小型車
	平均		30	※<30dBは30dBとして計算した		



St. 2	地点	振動				主な振動源
		Lmax	L10	L50	L90	
		(単位 : dB)				
		Lmax	L10	L50	L90	主な振動源
	7時台	69	52	40	<30	道路交通
	8時台	68	53	40	<30	道路交通
	9時台	70	55	40	<30	道路交通
	10時台	69	55	40	<30	道路交通
	11時台	68	54	39	<30	道路交通
	12時台	69	54	38	<30	道路交通
	13時台	72	53	38	<30	道路交通
	14時台	71	53	38	<30	道路交通
	15時台	69	51	36	<30	道路交通
	16時台	73	50	36	<30	道路交通
	17時台	68	47	35	<30	道路交通
	平均		52			



St. 3	地点	振動				(単位 : dB)
	Lmax	L10	L50	L90	主な振動源	
7時台	66	49	37	<30	道路交通	
8時台	63	50	38	<30	道路交通	
9時台	66	52	42	<30	道路交通	
10時台	67	53	41	<30	道路交通	
11時台	67	52	40	<30	道路交通	
12時台	66	52	40	<30	道路交通	
13時台	66	51	39	<30	道路交通	
14時台	66	52	40	<30	道路交通	
15時台	67	51	38	<30	道路交通	
16時台	67	51	36	<30	道路交通	
17時台	68	50	35	<30	道路交通	
	平均	51				



## <大気質調査結果一覧>

今年度モニタリング調査結果一覧を以下に示す。今回の調査期間のうち11月26日、27日に降雨があったため、結果は全期間での値と、降雨日を除いた期間での値の双方を記載した。また、参考として生活環境影響調査の値も記載した。

浮遊粒子状物質測定結果一覧

調査地点	調査時期	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値	1時間値が 0.2mg/m <sup>3</sup> を 超えた日数と その割合		日平均値が 0.1mg/m <sup>3</sup> を 超えた日数と その割合		環境基準 の適否
		mg/m <sup>3</sup>	mg/m <sup>3</sup>	mg/m <sup>3</sup>	日数	%	日数	%	
St. 1	H27. 11. 21~27	0.013	0.035	0.022	0	0	0	0	○
	(降雨日除く)	0.015	0.035	0.022	0	0	0	0	○
St. 1	H26. 9. 29~10. 9	0.026	0.065	0.039	0	0	0	0	○
	(降雨日除く)	0.027	0.065	0.039	0	0	0	0	○
No. 1 (※)	生活環境影響調査 秋季	0.011	0.039	0.013	0	0	0	0	○
	生活環境影響調査 年間	0.015	0.066	0.042	0	0	0	0	○

※) 新クリンセンター建設に係る生活環境影響調査書(H25年8月), p4. 1-18 表 4. 1. 1-16 に記載の値

二酸化窒素測定結果一覧

調査地点	調査時期	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値	日平均値が 0.06ppmを 超えた日数と その割合		日平均値が 0.04~0.06ppm の日数と その割合		環境基準 の適否
		ppm	ppm	ppm	日数	%	日数	%	
St. 1	H27. 11. 21~27	0.007	0.017	0.011	0	0	0	0	○
	(降雨日除く)	0.006	0.017	0.007	0	0	0	0	○
St. 1	H26. 9. 29~10. 9	0.005	0.030	0.009	0	0	0	0	○
	(降雨日除く)	0.005	0.030	0.008	0	0	0	0	○
No. 1 (※)	生活環境影響調査 秋季	0.004	0.018	0.006	0	0	0	0	○
	生活環境影響調査 年間	0.007	0.029	0.020	0	0	0	0	○

※) 新クリンセンター建設に係る生活環境影響調査書(H25年8月), p4. 1-16 表 4. 1. 1-14 に記載の値

降下ばいじん測定結果

調査地点	調査時期	総量 (t /km <sup>2</sup> /月)		目標値(※1) の適否
		不溶解性成分	溶解性成分	
St. 1	H27. 11. 20～12. 20	1. 0		○
		0. 35	0. 67	
St. 1	H26. 9. 29～10. 29	2. 3		○
		0. 62	1. 7	
No. 1 (※2)	生活環境影響調査	3. 5～4. 4		○
		0. 44～0. 60	3. 0～3. 9	

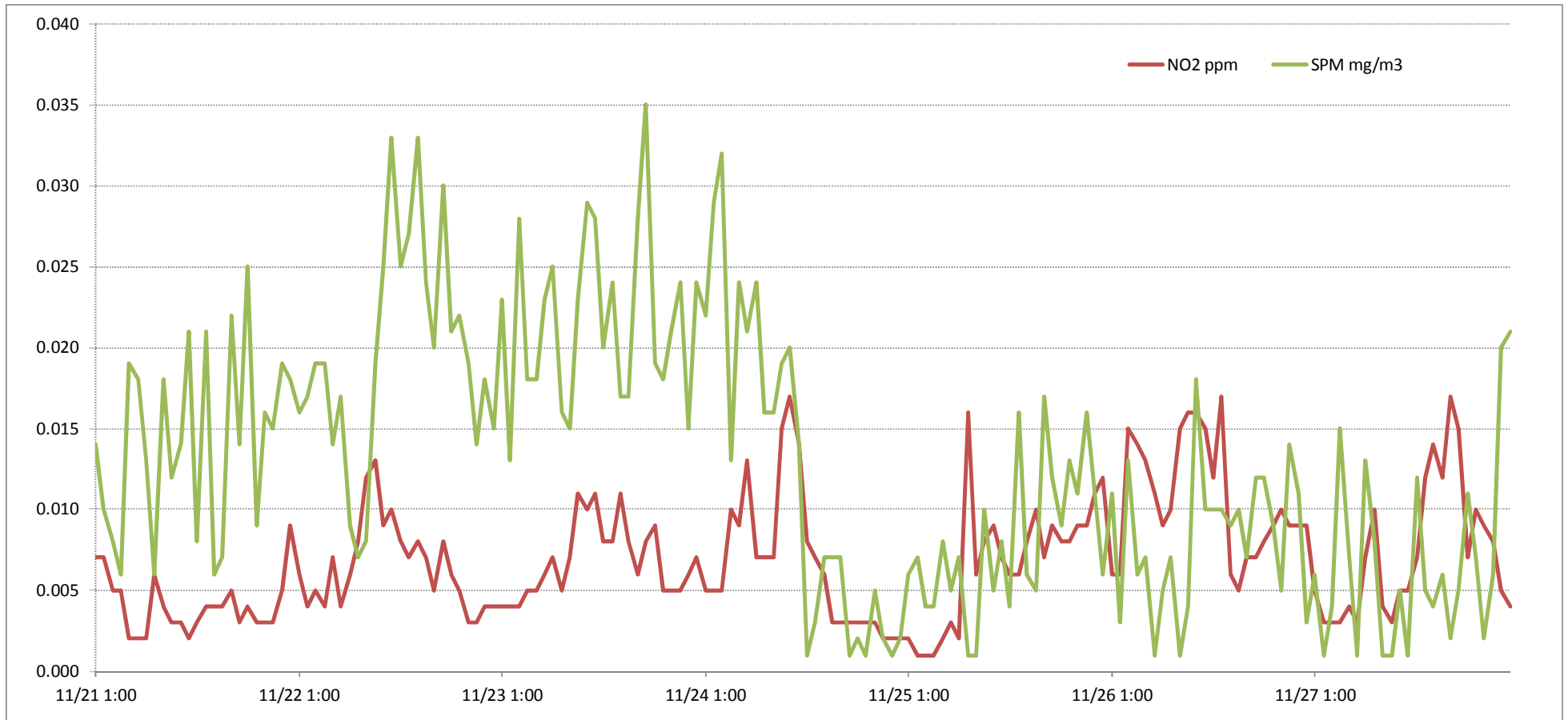
※1) スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について (平成2年環大自第84号) による 20t/km<sup>2</sup>/月

※2) 新クリンセンター建設に係る生活環境影響調査書 (H25年8月), p4. 1-21 表 4. 1. 1-19 に記載の値









<地下水位連続観測結果詳細>

